

ズバリ直言

市田 知子

日本ほどではないにせよ、ドイツでも農村の商店が閉店し、車を運転しないお年寄りなどが買

物に苦労している。ハノーファーから電車で1時間ほ

どの所にある人口5000人の村、オターセンでも2001年、唯一残っていた大手スーパー・エデカが撤退し、最寄りの店が8⁺も先になってしまうことから、その前年の12月末、村の有志が住民から資金を募り、欧州連合（EU）の支援を受けながら

ドルフラーデン（村の店）の開業にこぎつけた。01年4月、エデカ撤退からわずか2週間後のことである。

11年にはカフェを併設し、地元住民だけでなく、サイクリング客など外部からも大勢訪れ、交流の場となっている。7月の土曜日、現地を訪

ドルフラーデンを訪ねる

ね、店の運営団体の代表から話をうかがった。昔ながらの個人商店、通称「エマおばさんの店」とは異なり、冷凍食品も数多くそろえ、宅配便の受け付け、ATM（現金自動預払機）も備えている。一方で、地元の食品メーカーの製品、近所の農家の作っ

たハチミツやジャムなどを扱い、大手スーパーとも差別化している。

カフェでは日曜日の朝食ビュッフェ、誕生日パーティー、視察者のための説明会、編み物教室なども開かれる。伝統家屋を改装した建物なので趣があり居心地がよい。代表いわく「朝と午後と2回来て、

買い物としてはおしゃべりをしている人もいますよ。

それぞれ別の相手と話すのを楽しみにね。「この村に住むお年寄りが、村でもっと年をとっていくことができる環境をつくりたい」という何気ない言葉にはとさせられた。

（明治大学農学部食料環境政策学科専任教授）